



ひなどり

園だより 6月号

令和4年6月1日

新潟市立新津第三幼稚園

「生き物と子どもたち」

園長 川合 千尋

子どもたちは、私がお誕生会などで草花を紹介した時よりも、動物や昆虫などの生き物を紹介したときの方が、とても強い関心を示します。私の息子や娘が小さかった頃、やはり動物などの生き物に強い関心を示したことがうれしくて、お休みのたびに動物園やら水族館に連れて行くようになり、気がつけば日本全国の動物園や水族館巡りをしていました。そんなことを思い出しながら、改めて子どもたちはなぜ、こんなにも生き物に強い興味をもつのか考えてみました。

ある教育学者によりますと、子どもは応答してくれるものに価値を見いだす、自分で動くものにおもしろみを感じるのだというそうです。また、生き物はいずれも「からだ」をもっており、そこに人間の体の共通性を感じ取るのだそうです。その他、その多様性(いろいろなへんてこな形や色)にも興味を引くのでしょう。特に幼児期は、まず絵本で動物を知ってから現実の動物と出会います。その中で、人間のものである、人間ではない生き物の関心を寄せていくということです。

これは、子どもたちに限らず、私たち大人にとっても同じように感じる事ができるように思えます。私たちも「似ているようで似ていない」生き物の存在に関心を寄せます。そしてさらに、その生き物が何を食べ、どこにすんでいるのか、また、どのような関係性で他の生き物と係わっているのか考えを巡らせます。そうすることで人間と他の生き物について深く考えることができるようになっていくでしょう。

このように考えを膨らませていると、食物連鎖、生態系、環境問題などのワードがどんどん思い起こされてきました。難しいことはさておき、考えを巡らせるうちに、子どもたちが幼児期に生き物とふれあうことの大切さについて、春の遠足の加茂山公園で「リス」とふれあう子どもたちの姿を見ながら、よりいっそう強く感じるようになりました。

